



OUIK Newsletter

2017年7月号



目次

ハイライト	2
・ 持続可能な都市「金沢」に向けた新しい取り組み	
・ 沖国連大学上級副学長が石川県知事、金沢市長を表敬訪問	
・ パルマー生物多様性条約事務局長の国連大学訪問	
主な活動報告：2017年1-6月	3
・ 生物多様性条約第13回締約国会議（COP13）合同報告会	
・ 能登 GIAHS の生物多様性に関する調査・GIAHS 環境教育についてのワークショップ	
・ 里海シリーズ講座（第6回、第7回）	
・ 卯辰山、東山ひがし伝統的建造物群保存地区にてフィールド調査	
・ 国際生物多様性の日記念公開フォーラム	
・ 「心の道」散策と心連社庭園の清掃	
・ 日本庭園セミナー：金沢市内の日本庭園の役割について考える	
・ MISIA の森里山ミュージアム	
・ 金沢大学留学生との「持続可能な開発目標（SDGs）」に関するワークショップ	
第1回アジア生物文化多様性国際会議後の取り組み	9
・ 石川県自然史センター主催公開シンポジウム「生物文化多様性とは、何か？」での講演	
・ SATOYAMA イニシアティブ主催の地域ワークショップでの報告	
・ 第1回グローバル生物文化多様性会議準備会合への参画	
国際社会での発信	10
・ 第10回東南アジアユネスコエコパークネットワーク会議での招待講演	
・ GIAHS 行動計画の実施及びモニタリングに関するワークショップへの参加	
人材育成	11
・ OUIK インターンシップ生の活動紹介	
お知らせ	11

ハイライト

◆ 持続可能な都市「金沢」に向けた新しい取り組み

金沢市は様々な都市空間において美しい自然が保たれています。その典型的な例が伝統的な日本庭園であり、金沢にある日本庭園は住民に様々な自然の恩恵をもたらしています。いしわか・かなざわオペレーティング・ユニット（OUIK）は持続可能な都市「金沢」に向けて、金沢の伝統的な日本庭園から考える新たな活動を始めました。詳細については、本ニュースレター5-7 ページをご参照ください。

◆ 冲国連大学上級副学長が石川県知事、金沢市長を表敬訪問

金沢市、2017年6月14日

冲大幹国連大学上級副学長が谷本正憲石川県知事、山野之義金沢市長へそれぞれ表敬訪問を行いました。2008年のOUIK設立以来の継続的なご支援に感謝するとともに、今後の連携、協力に関する意見を交換しました。

谷本知事からは、国連大学と石川県によるこれまでの協力実績に対して高い評価を頂くと共に、地域から国際的な発信、貢献を行っていくことの重要性が強調され、国連大学と石川県の協力関係が新しいステージに入ったことへの期待感が示されました。山野市長からは、金沢市が重層的な文化政策を実施していく中で、国連大学の国際的な発信力に期待が寄せられました。冲上級副学長は、国連持続可能な開発目標（SDGs）にふれながら、国連機関、学術研究機関として国連大学は、石川、金沢が飛躍していくために引き続き貢献していく旨をお伝えしました。

表敬訪問につづいて、OUIKが地域のパートナーらとすすめる研究活動、生物多様性条約へのインプットなど国連プロセスへの貢献活動などについて意見交換を図りました。



冲国連大学上級副学長（左）と谷本石川県知事（右）

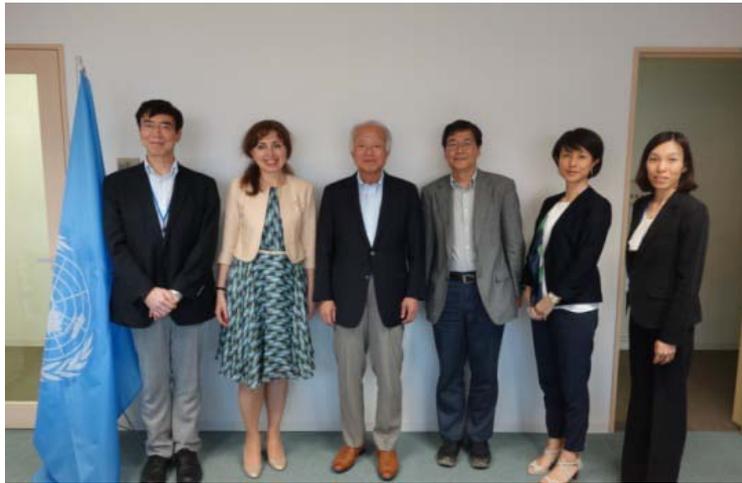


冲国連大学上級副学長（左から2番目）と山野金沢市長（右から2番目）

◆ パルマー生物多様性条約事務局長の国連大学訪問

東京都、2017年6月19日

2017年3月に新しく生物多様性条約事務局長に就任したクリスティアナ・パスカ・パルマー氏が訪日、国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）を訪れ、武内 UNU-IAS 上級客員教授らと意見交換を行いました。名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）以来、自然と共生する社会を実現するための UNU-IAS の取り組み、特に代表的なプロジェクトとして Satoyama イニシアティブ とそのための学術的なアプローチが紹介されました。OUIKからは2016年10月に開催された第1回アジア生物文化多様性国際会議について紹介し、引き続き生物多様性条約とユネスコが共同ですすめる生物多様性と文化多様性のつながりプログラムに貢献していくことをお伝えしました。



パルマー生物多様性条約事務局長（左から2番目）が武内 UNU-IAS 上級客員教授（左から3番目）と対談

主な活動報告：2017年1-6月

✦ 生物多様性条約第13回締約国会議（COP13）合同報告会 -石川の里山里海資源を人づくり、地域づくりに活かすには- 金沢市、2017年2月9日

生物多様性条約第13回締約国会議（COP13）での成果と、COP13でのOUIKの取り組みを報告する公開セミナーを開催しました。



本セミナーにおいて、中尾文子氏(環境省 自然環境局 自然環境計画課 生物多様性地球戦略企画室室長)は、愛知目標に向けた世界の動向を報告し、また、道家哲平氏(公益財団法人 日本自然保護協会 経営企画部 副部長)は、市民社会の観点から見たCOP13の成果を概括しました。OUIK事務局長の永井三岐子からは、COP13の場で第1回アジア生物文化多様性国際会議の成果として石川県と連携協力して、アジアの学びあいの場をより一層進展させていくことを提案したことが紹介されました。

パネルディスカッションでは、輪島市三井で地域の学びの場「まるやま組」を主催し海外研修員や視察受け入れの実績もある萩のゆき氏、イカリモンハンミョウの保全を大学と地域の連携で取り組むプロジェクト・アイ会長の上田哲行氏、白山一帯で活動する環白山保護利用管理協会の島由治氏に登壇頂き、パネリストと参加者の間で学びあいの地域事例が共有されるとともに、意見交換が行われました。最後に、石川で行われている様々な里山・里海の保全、活用の取り組みに、アジアのコミュニティなど海外からも幅広く参加してもらうことで生きた学びあいの場となることが確認され、引き続きOUIKが進める活動への積極的な参加を呼びかけました。



◆能登 GIAHS の生物多様性に関する調査・GIAHS 環境教育についてのワークショップ

輪島市、2017年3月16日

2016年度に OUIK が実施した「能登 GIAHS における生物多様性・環境教育に関する取組の現況評価」調査の報告、並びに今後のアクションを議論するために、GIAHS 関係者とワークショップを行いました。ワークショップには、能登 GIAHS 推進協議会（9市町の GIAHS 担当者）、能登生物多様性研究会メンバー、能登 GIAHS 活用実行委員会関係者ら合わせて 25 名が参加しました。



本調査は、2015 年度に改訂された能登 GIAHS アクションプランに沿って、能登地域全体の生物多様性の評価、モニタリング手法の開発、能登 GIAHS に関する共通の教育教材の開発につなげるため、OUIK が金沢大学能登学舎の協力を得て実施したものです。

調査は、能登 GIAHS を構成する 9 つの市町のアクションプランや環境基本計画の整理、自治体や県などにより実施されてきた生物多様性関連の取組の整理、そして能登地域の小学校、中学校、高校で行われている生物多様性に関連する教育活動の実施状況に関するアンケート調査などで構成されています。

冒頭、OUIK 研究員の飯田義彦より調査報告書の概要が共有されました。その後、参加者は 4 つのグループに分かれ、OUIK メンバーや金沢大学教員がファシリテーターとなり、能登 GIAHS を次世代にしっかり伝えていくための教材作りに関するグループワークを進めました。各グループ発表では、能登 GIAHS の共通の環境教育教材として活用できそうなストーリーとして、カキ、ナマコ、海藻などの海産物を題材にし、森や水田とのつながりを示すようなアイデアが提案され、活発な議論が行われました。この成果は、引き続き関係者の皆様と共有されるとともに、今後の能登 GIAHS を良く理解するための教材づくりや生物多様性モニタリング手法の開発に向けた取組事業につながる



ことが期待されます。

◆里海シリーズ講座（第 6 回、第 7 回）

■第 6 回里海シリーズ講座：輪島の里海を支える海の女性たち（輪島市、2017年2月16日）

里海シリーズ講座第 6 回は、初めて地元中学校での開催となりました。輪島で 30 年以上海女としての経験をつんできた早瀬ちはるさんをゲストスピーカーとしてお呼びし、30 人の門前中学の生徒を前に OUIK 研究員のイヴォーン・ユーとの対談を行いました。早瀬さんのお話によると、海女は小さな頃から家族や他の海女さんからフリーダイビングの技術を教わることで、海女は 2 人 1 組で潜り、一人が獲物を見つけ、もう一人がそれを捕獲すること、これは体力を温存するだけでなく、お互いの安全を確保しながら潜るためでもあることなどが紹介されました。あわびや

さざえが採れる漁の時期は 6 月から 8 月までの 3 ヶ月とのことですが、中には冬にワカメ漁に出る海女もいるそうです。



ユ一研究員（左）と早瀬ちはるさん（右）

輪島の海女たちは、漁期を守り、潜水時間も決められた以上潜ることはしないため、こうしたことが地域の資源を持続的に利用する知恵だと考えられています。海女によって水揚げされた海産物は、輪島名物として朝市で売られます。門前中学校の生徒は、早瀬さんの海中での様々な出来事に聞き入り、また地域の持続可能な漁業は男性漁師だけでなく、様々な役割を持つ女性によっても支えられていることを学びました。

■第 7 回里海シリーズ講座：さまざまな仕事を通じて支えあう里海づくり

（東京都、2017 年 6 月 10 日）

OUIK は、生物文化多様性シリーズ 3 「能登の里海ムーブメントー海と暮らす知恵を伝えていくー」の刊行を記念して「さまざまな仕事を通じて支えあう里海づくり」を開催しました。本イベントは国連大学本部で「里海」を題材にした初めてのシンポジウムとなりました。



本シンポジウムでは、日本の里海における漁法や資源管理といった伝統的な「コモンズ」の考え方を生かしつつ、現代社会にふさわしい漁業資源や沿岸の共同管理の仕組みづくりが必要であると強調されました。また、こうした動きが持続可能な開発目標（SDGs）14 項目「海の豊かさを守ろう」の達成につながるとの認識が共有されました。

OUIK 所長の渡辺綱男の開会あいさつの後、武内 UNU-IAS 上級客員教授が「『能登の里山里海』からみる森里川海つながり」と題して基調講演を行いました。また、ユ一研究員が「能登の里海ムーブメント」の活動報告を行いました。このほか、石川県の能登地方で伝統的な「ボラ待ちやぐら漁」を復活させた漁師や、ダイビングを通じて漁場保全のためのモニタリングを行う高校教諭など、地元住民らの里海づくりに関する取り組みを発表しました。

また、岡山県備前市日生町と宮城県南三陸町での里海づくりが、先進事例として紹介されました。パネルディスカッションでは、パネリストが参加者とともに、里海の定義や里海づくりのあり方について議論を交わしました。

✦卯辰山、東山ひがし伝統的建造物群保存地区にてフィールド調査

金沢市、2017 年 5 月 7 日

OUIK では、研究員のフアン・パストール・イヴァールスを中心に、金沢市の協力を得ながら人口減少に伴う金沢市の文化的景観に与える影響を評価するための研究を実施しています。卯辰山山麓、東山ひがし伝統的建造物群保存地区を調査対象とし、同地区では空家、空き地、駐車場が増えてきていることが分かってきました。

この地区には寺院、庭園、水路をはじめとする歴史的価値のある建造物、そこに暮らす人々の日常の中に残る文化的な営みが色濃く残っています。これらの文化的資源が、新しいビルや駐車場の開発、緑地保全などとのバランスをとりながら継承されるために、様々な関係者を巻き込んで街づくりを進めていくことの重要性を地域で共有することを通じて、本地区のレジリエンス（回復力・抵抗力）を高めることを考えます。



5月7日には OUIK メンバーと日本造園学会 (JILA) 石川支部のメンバーが、東山 1 丁目のフィールド調査を行いました。対象地域では文化的景観や自然が美しく残る地域と生態学的に再考が必要な地区があることを観察することができました。また近隣住民からも地区の歴史や、生活域に増加する観光客、空家の増加、地区のアイデンティティの喪失など現在直面する課題を直接聞き取りました。OUIK はこれからも広く関係者を巻き込みながら、この課題に取り組んでいきます。

◆ 国際生物多様性の日記念公開フォーラム 市民が見守る地域の生物多様性 -市民科学の可能性を考える- 金沢市、2017年5月14日

国際生物多様性の日にちなんで、OUIK は「市民が見守る地域の生物多様性」と題して、地域住民が地域の自然を見守り、次世代に残していく市民モニタリングを題材に公開フォーラムを開催しました。基調講演では鷺谷いづみ氏（中央大学理工学部人間総合理工学学科保全生態学研究室教授）が、地球規模で生物多様性が失われている状況を俯瞰し、そのために世界が愛知目標の達成に向けて取り組んでおり、地域での市民の参加が愛知目標の達成に不可欠であると述べました。続いて須田真一氏（中央大学理工学部人間総合理工学学科保全生態学研究室協力研究員）から市民と生活協同組合、研究者が連携して成功を納めた東京の蝶のモニタリングの事例紹介がありました。



パネルディスカッションでは金沢市が市内全域で 30 年以上行なっているホタル調査、石川県全域で 45 年の歴史をもつツバメ調査の事例、2016 年に策定された金沢市の生物多様性地域戦略、



そこに謳われている生物多様性モニタリングへの市民参加事業やネットワーキング事業を紹介し、これからどのような形でこれらの取組を連携させていくかが議論されました。鷺谷、須田両氏からは、これらの活動は大変重要で、長年にわたるこれらの活動は他地域でも例がなく高く評価されるべきもので、今後はこれらの活動と IT や専門家との連携が望まれるとコメントがありました。古池石川県自然史センター理事長（当時）からは、金沢市の動植物のモニタリングは市民団体による活動が長らく支えて来た背景があり、今後これらの蓄積を新しい動きと連動させるために協力したいと総括の言葉を頂きました。

◆「心の道」散策と心蓮社庭園の清掃

金沢市、2017年5月28日



フアン研究員をはじめとする OUIK メンバーは、土田義郎氏（金沢工業大学環境・建築学部建築学科教授）及び同研究室の学生と共に、「心の道」を散策し、金沢市の文化財に指定されている心蓮社庭園の清掃を行いました。この活動は、金沢市文化スポーツ局文化財保護課および心蓮社住職である小島隆彦氏のご理解とご協力により実現しました。

庭園の清掃活動では、池に生えた藻や青苔を覆う落ち葉を取り除きました。清掃活動の後には、寺内の和室から、庭園を眺めながら、小島住職から心蓮社の歴史や現状を聞き、フアン研究員から庭園の特徴の説明がありました。土田教授からは庭が奏でる様々な「音」に関する気付きに関するお話があり、五感をフルに使った庭園を学ぶワークショップとなりました。

議論の中で、心蓮社庭園は今後、地元住民や観光客を巻き込んだ「庭園保全」のモデルケースになり得るのでは、という意見も出されました。

◆日本庭園セミナー：金沢市内の日本庭園の役割について考える

金沢市、2017年6月25日

近年の自然環境や文化財保全への関心と、歴史ある日本庭園との結びつきを深めるため、心蓮社において持続可能な庭園保全についてのセミナーを開催しました。

冒頭、心蓮社の小島住職から心蓮社について紹介された後、フアン研究員から本セミナーの趣旨が説明されました。趣旨説明に続き、金沢工業大学の土田教授や金沢の造園家として名高い野々市芳朗氏（有限会社野々市造園 代表取締役）などからお話を伺いました。まず、土田教授は日本庭園のサウンドスケープについて講演し、続いて、野々市氏からは金沢の伝統庭園を特徴付ける要素や自身の作品についての説明がありました。最後に、阿野晃秀氏（京都学園大学バイオ環境学部研究助手）が、雨庭のコンセプトについて発表しました。



フリーディスカッションでは、飯田研究員のコーディネートで、「金沢の庭園における推進と保全」を題材に議論が進められました。その中で、金沢市指定文化財となっている金沢市内にある4つの伝統庭園（辻家庭園、寺島蔵人庭園、西家庭園、心蓮社庭園）の所有者から、伝統庭園を保持する上での課題が提示されました。これを受け、金沢市職員や金沢市内の大学関係者を交えて活発な議論が展開されました。ディスカッションの最後には、こうしたセミナーを継続的に開催することは、伝統庭園の保全と活用との適切なバランスを見いだすことにつながり、かつ、金沢の伝統庭園の維持に住民や観光客を将来的に巻き込んでいける可能性もでてくること指摘されました。



✦ MISIA の森里山ミュージアム

金沢市、2017年6月11日



石川県主催 MISIA の森里山ミュージアムに参加しました。石川県森林公園の中でのびのびと遊びながら、アートを通して自然の豊かさ、生物多様性を感じることができるイベントでした。OUIK からは飯田研究員が世界の里山写真展の出展を行い、OUIK インターンシップ生の吉田茉莉花さんは森の中でジャズの演奏をしました。

世界各国で撮影された写真からは、生活の様子や自然の風景を身近に感じることができ、環境と人間とが織りなす地域それぞれの雰囲気の違いを知る機会となりました。公園内では小気味よく流れるジャズをバックに親子で森林浴を楽しんだり、木漏れ日がさ



す中、いつもより少しわくわくする森を散策したりする様子がみられました。

✦ 金沢大学留学生との「持続可能な開発目標（SDGs）」に関するワークショップ

金沢市、2017年6月24日



OUIK は、金沢市内にある宝円寺で行われた Aida Mammadova 氏（金沢大学特任助教授）の主催する持続可能な開発目標（SDGs）に関するワークショップに参加および共催しました。

ワークショップ冒頭では、Moshiur Rahman 氏（広島大学教授）から、バングラデッシュの公衆衛生改善の事例を取り上げ、他の開発課題とどう連携させるかについて発表があり、持続可能な開発目標（SDGs）において、より統合されたやり方でアプローチすることの重要性が述べられました。

講義の後には、「持続可能な都市とは」というテーマで世界各国からの学生達が、母国の持続



可能な都市に関するプレゼンテーションを行い、OUIK インターンシップ生の吉田茉莉花さんも日本の事例について発表しました。続いてのワークショップでは、それぞれのプレゼンテーションに基づいて、金沢市が持続可能な都市となるためにどのような施策が有効かを持続可能な開発目標（SDGs）17項目の視点を用いて活発に議論が繰り広げられました。緑に包まれた歴史ある禅寺で、有意義な時間を過ごすことができました。

第 1 回アジア生物文化多様性国際会議後の取り組み

◆石川県自然史センター主催公開シンポジウム「生物文化多様性とは、何か？」での講演

金沢市、2017年3月5日

石川県自然史センターが会員向けに毎年行っているシンポジウムにおいて、永井事務局長が講演しました。講演の中で、永井事務局長は生物の多様性と文化の多様性の潜在的な関係性を説明するとともに、生物文化多様性という言葉には、先住民の権利といった社会的課題が包含されることについても触れました。パネルディスカッションでは、大学関係者、金沢市職員、金沢市内農業生産者と、地元の環境問題の解決に向けて、どのように生物文化多様性アプローチを活かしていくのかについて議論しました。OUIK は、今後も第 1 回アジア生物文化多様性国際会議の成果と石川宣言の実施に向けて、石川の生物文化多様性に取り組む団体とのネットワーク強化に努めます。



◆SATOYAMA イニシアティブ主催の地域ワークショップでの報告

サバ州、マレーシア、2017年4月18-20日

永井事務局長と飯田研究員は、マレーシアサバ州コタキナバルで開催されたSATOYAMAイニ

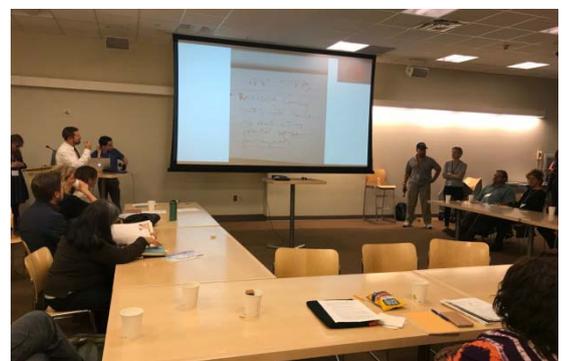


シアティブ国際パートナーシップ (IPSI) 地域会合に参加しました。ワークショップでは、アジアにおける社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープのコンセプトやアプローチの主流化について議論され、永井事務局長は第 1 回アジア生物文化多様性国際会議の成果を発表しました。また、エクスカージョンでは、JICAのSDBECプロジェクト¹サイトであり、またユネスコエコパークでもあるクロッカーレンジを訪れ、若い村民が地域開発のため重要な役割を果たしている様子を参加者とともに視察しました。

◆第 1 回グローバル生物文化多様性会議準備会合への参画

ニューヨーク、米国、2017年4月30日

第 1 回アジア生物文化多様性国際会議の成果をふまえ、生物多様性条約とユネスコの共同プログラムとアメリカ自然史博物館が共同し、第 1 回グローバル生物文化多様性会議の開催に向けて動き始めました。その準備会合に、OUIK から永井事務局長が出席し、第 1 回アジア生物文化多様性国際会議での経験・成果を参加者と共有しました。ブレインストーミングセッションでは様々な意見や課題が抽出され、これらをもとに2018年春の開催に向けて会議のコンセプトやアプローチが決められてゆきます。



¹サバ州を拠点とする生物多様性・生態系保全のための持続可能な開発プロジェクト

◆ 第 10 回東南アジアユネスコエコパークネットワーク会議での招待講演

ジャカルタ、インドネシア、2017年5月16-17日

第 10 回東南アジアユネスコエコパークネットワーク会議（10th Southeast Asia Biosphere Reserves Network (SeaBRnet) Meeting）が開催され、飯田研究員がユネスコ・ジャカルタ事務所（JFIT 拠出金）の支援を受け、招待参加しました。本会議には、東南アジア各国やユネスコなどの関係機関から約 40 名ほどが参集し、5 月 16 日（火）には、飯田研究員が「Roles and challenges of local implementation for UNESCO science program: A case of Japanese BRs」（ユネスコ科学プログラムの地域展開の役割と課題：日本のユネスコエコパークの事例から）と題して基調講演を行いました。



（写真提供：UNESCO Jakarta Office）

日本のユネスコエコパークの概要を紹介するとともに、2016 年度に白山ユネスコエコパーク協議会と OUIK が共同実施した「ユネスコ人間と生物圏（MAB）計画における実務者交流を促進するアジア型研修プラットフォームの創出事業」（平成 28 年度政府開発援助ユネスコ活動費補助金：文部科学省）の取組成果を共有し、本会議の議論形成に貢献しました。

続いて、カンボジア、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、タイ、東ティモール、ベトナムの各国の取組状況が紹介され、ジオパーク、水文プログラム、世界遺産などのユネスコ科学プログラム間の連携に関するセッション（座長：飯田研究員）が行われました。

なお、詳細は、ユネスコ・ジャカルタ事務所、Japanese Funds-in-Trust (JFIT) のページで参照できます。

◆ GIAHS 行動計画の実施及びモニタリングに関するワークショップへの参加

ローマ、イタリア、2017年6月29-30日

永井事務局長はイタリアローマに本部を置く国際連合食糧農業機関（FAO）において開催された「GIAHS 行動計画の実施及びモニタリングに関するワークショップ」にリソースパーソンとして招かれました。このワークショップでは、主に北アフリカに点在するオアシスにおける農業の管理・維持に主眼を置いて、GIAHS 認定地域におけるモニタリング手法の開発について議論されました。永井事務局長は、能登 GIAHS での行動計画及びモニタリングの実施状況について発表しました。最後に、各 GIAHS 認定地域はそれぞれ自然環境や地理的・社会的な環境が異っていても、関係者間の協力、連携や能力開発の必要性などの共通の課題が存在することが確認されました。



人材育成

◆ OUIK インターンシップ生の活動紹介

金沢市、2017年4月10日から7月14日

東京学芸大学国際理解教育課程学部4年、金沢市出身の吉田茉莉花と申します。OUIKでインターンシップ生として2017年4月から7月までお世話になりました。大学では都市学とエスニシティ論を勉強しています。人の移動と定住に興味があり、インターンシップでは文化という視点から地方都市の現状・課題把握を行いました。様々な立場の地域に関わる人々が、文化を通して今後の石川・金沢にどのような影響を与えるのか、という問いのもと100人以上にインタビューしました。目で見て、実際に話を聞いて様々なことを知ることができ、貴重な経験をさせていただきました。9月からはOUIKで学んだことを生かし、ニューヨーク市立大学へ留学します。



OUIKでの主な活動内容は、OUIKで行われている取り組みや学びあいの場への参加、創造都市金沢に関する研究、金沢大学留学生を対象とした持続可能な開発目標（SDGs）をテーマとしたクラスへの参加、石川県森林公園で行われたMISIAの森里山ミュージアムでの演奏です。

お知らせ

◆ イベントのご案内

国際シンポジウム「暮らしと自然と文化的景観」

日程：2017年8月27日(9:00-16:30)

会場：金沢市文化ホール3階、大会議室（日英同時通訳あり）

主催：金沢大学 地域政策研究センター

共催：OUIK、エコロジカルデモクラシー財団、他

生物文化多様性を考える国際セミナーシリーズ

日程：第1回2017年10月4日(14:00-17:00) / 第2回2017年10月15日(13:30-17:30)

会場：ともに金沢市文化ホール3階、大会議室（日英同時通訳あり）

主催：国連大学サステナビリティ高等研究所、国際自然保護連合日本委員会、他

最新情報についてはウェブサイトをご覧ください：<http://ouik.unu.edu/events>

2017年1-6月（上半期）の活動実績

1月

- 「白山ユネスコエコパーク」スタディセミナー（講演：飯田「世界の扉としてのユネスコエコパーク：その発展と役割」）富山県南砺市1月22日
- 「イフガオ里山マイスター養成プログラム」総括国際フォーラム（コメンテーター：永井）輪島市1月31日

2月

- 「日本とフィリピンの世界農業遺産の連携活動（GIAHS Twinning）：能登、佐渡とイフガオ棚田持続発展にむけて」第3回ワークショップ（コメンテーター：永井）2月2日
- 「生物多様性条約 COP 13 合同報告会」（講演：飯田「ユネスコエコパークを通じたアジアとの学び合い：白山ユネスコエコパークとの連携から得た教訓」、ユー「アジアとの学び合いの実践～地域と世界農業遺産（G I A H S）「能登の里山里海」との連携～」）金沢市 2月9日
- 奥能登の藪ツバキ研究訪問 珠洲市・能登町・輪島市 2月22-24日（コーディネーター：渡辺、ユー）
- 第4回環境王国小松里山学会～未来につなぐ里山の学び～（コメンテーター：永井）小松市 2月18日
- いしかわ生物多様性フォーラム～生物多様性と企業のかかわり（講演：飯田「いしかわの里山里海を次世代につなぐには：能登 GIAHS の生物多様性の取組に関する調査をふまえ」）金沢市 2月27日
- ユネスコ人間と生物圏（MAB）計画における実務者交流を促進するアジア型研修プラットフォームの創出事業成果報告書〔平成28年度政府開発援助ユネスコ活動費補助金（文部科学省）事業〕（白山ユネスコエコパーク協議会）（共同編集：飯田）2017年2月発行

3月

- 「森林環境 2017 特集・森のめぐみと生物文化多様性」（寄稿：飯田「新たな森の産業創造—石川県における林業事業者による挑戦」）3月15日発行
- 「能登 GIAHS 生物多様性に関する調査・環境教育についてのワークショップ」（調査報告：飯田「『能登 GIAHS における生物多様性・環境教育に関する取組の現況評価』調査概要報告」）3月16日
- 「第102回環境コロキウム 国連大学 東北大学 研究交流会」（報告：飯田「生態系サービス活用の社会実装研究フィールドとしての石川県の可能性」）仙台市 3月21日
- 「造園修景いしかわ 2016-第19号（要旨集）」（発表：ファン「金沢市文化財指定「心蓮社庭園」の保全」及び「伝統的建造物群保存地区「東山ひがし」と「卯辰山麓」の再生」）

4月

- 日本造園学会石川県連絡会勉強会（発表：ファン「町再生プロジェクト概要」）金沢美術工芸大学 4月12日
- 白山ユネスコエコパーク協議会第15回幹事会・第29回関係自治体及び関係団体ワーキンググループ（報告：飯田「マレーシアBRの視察報告」）岐阜県郡上市 4月25日

5月

- 第6回白山ユネスコエコパーク協議会（ミニ講演：飯田「白山ユネスコエコパークを活かした取組に向けて」）白山市 5月8日
- 京都大学 流域・沿岸域統合管理学（講義：飯田「Roles and Challenges of Mutual Learning contributing to global network on bio-cultural diversity」）京都府京都市 5月17日
- University of the Philippines Open University: Program for the Webinar on Sustainable Agriculture and Tourism（講演：飯田「Connecting to the local and international community: Efforts in Mount Hakusan, a designated MAB Biosphere Reserve」）金沢市 5月25日

6月

- 「「能登里山里海マイスター」育成プログラム 里山里海再生学講座「世界農業遺産『能登の里山里海』の活用と未来への継承」（講演：飯田「石川県の自然文化資源活用の取組とその評価」）珠洲市 6月3日
- 「白山ユネスコエコパーク協議会 第30回関係自治体及び関係団体ワーキンググループ」（報告：飯田「第10回東南アジアユネスコエコパークネットワーク会合参加報告」）富山県南砺市 6月29日

発行 2017年7月

国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット

〒920-0962 石川県金沢市広坂2-1-1 石川県政記念しいのき迎賓館3階

Tel: +81-76-224-2266 Fax: +81-76-224-2271

Email: unu-iasouik@unu.edu URL: www.ouik.unu.edu

Find us on Facebook! <https://www.facebook.com/OUIK.UNU.IAS>